

輝石

～追～

洗足学園高等学校 高校2年 学年通信 2020.05.11 発行
(活動メモより特別号③)

今週でオンライン授業も2か月目に入ります。ご家庭の変わらぬサポート、改めて感謝申し上げます。生徒たちの活動メモには現在、「問いに対する答え」が20個蓄積されています。新聞やニュースで見聞きする書評やコメントよりも、生徒たちの言葉や表現に、ハッとさせられたり、考えさせられたり、私たち教員も学びの多い日々を過ごすことができます。

4月27日(月) 『あなたの印象に残っている言葉』 A先生からの問い

高2A S.M

「大した才能がなくても優しさを持っている。優しさは最高の才能だ」

人間誰しものが飛び抜けた才能を持っているわけではない。私も大した才能もなく、普通なことしかできないと思ったことがある。けれど優しくできることは才能なのだとこの言葉を聞いたときに心が温かくなった。だが、ずっと人に親切にしろと言われたら自分は気を遣ってばかりだし苦勞することも多くなってしまうと思う。私は常に優しくはできていないと思っている。やはり嫌なことがあったりされたりしたら優しくはできない。それでも自分ができる限り優しくなりたいと思う。今はまだ才能といえるほど優しさを持ててはいないかもしれないが、自分が優しさをもつことで周りも変わっていくかもしれない。影響し合うことで人間は皆優しくなれると思った。

高2D O.Y

「才能は開花させるもの センスは磨くもの」

この前に、「もう自分の力の上限を悟ったというのか？」というセリフが出てきます。才能やセンスは、努力で手に入れることができるので、才能が、センスがないと諦める前にすべての努力を尽くそうという意味です。苦手なことでも、自分には無理だと諦めるのではなく、逃げずに努力しようと思いました。例えば、人とのコミュニケーションで、話すときは笑顔を心がけることや、少し声を大きくするなどです。また、自分より優れている人は、今まで自分よりも努力をしてきたのだと思うようになりました。もちろん元々得意だった人もいるでしょうけれども、あの人は才能があるのだと妬むのではなく、自分も努力しようと思えます。

高 2F H.H

「大切なのは、どれだけ多くのことをしたかではなく、どれだけ心をこめたかです」

これは、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの言葉で、なぜそこにあったかはわからないが通院している病院で見たものだ。

高 2 にもなると、行事や部活などでいわゆる肩書きをもつ人が増える。リーダー気質だった友だちは、どんどん部長や実行委員長と名前を変えるようになる。たとえ高 2 でなくとも、各学年で何かの代表になる人はいる。中には掛け持ちをする人も少なくない。そして大学進学のリポートフォリオでは、高校で何をしたかということでそのような肩書きが有利にはたらく。そう聞いて、焦っていた。自分には何があるのか、自分には何もないんじゃないかと焦っていたのだ。でもこの言葉で気持ちが楽になった。肩書きの数が全てではない。もっと言えば、肩書きを持たなくてもいい。心をこめて、自分ができる最大限のことをしようと全力で取り組む。たとえ皆をまとめるリーダーでなくとも、そうすれば得られることや学べる必要がある。この言葉はそう思えるきっかけになった。そしてほっとしたと同時に、全力で取り組んで全力で生きることを頑張ってみようと思った。

4 月 28 日（火） 『科学と芸術の共通点は何だと思いますか』 H 先生からの問い

高 2D I.T

芸術家の岡本太郎さんの言葉に、「芸術は爆発だ」というものがある。多くの人が知っているであろう言葉だが、その意味を聞かれるとうまく説明できない。調べてみると、「芸術というのは生きることそのものである。人間として最も強烈に生きる者、無条件に生命をつき出し爆発する、その言い方こそが芸術なのだということを強調したい。（中略）全身全霊が宇宙に向かって無条件にパーッと開くこと。それが「爆発」だ。」と、ある。自分なりに解釈してみると、周りの人間の考えに流されるのではなくて、自分の想像力や思想、パワーを全面に打ち出して、自己をその作品の中で表現しきった者こそ真の芸術家であり、人間であるということなのではないだろうか。

これを踏まえて科学研究について考えてみると、やはり似通った部分があるのだと気がついた。芸術と違って、研究には成功と失敗があるけれど、研究を成功させるためには既存の事実を気にしながらも、自分の想像力を働かせて新たな視点でものを見なければいけない。科学技術の最先端が更新されればされるほど、新しい発見を求めれば求めるほど、今まで縁がなかったものと結びつけたり一度頭をまっさらにして考えたり、そういう面で独創性が必要になってくる。そもそも、科学研究も芸術も新しい物事を生むという意味で根本はほぼ同じなのではないだろうか。このことから、科学研究と芸術は、未知の領域に足を踏み入れる最中で、固定観念にとらわれずに自己を貫き通して、自分の能力を爆発させた人が成功するし良い作品を生み出せるという点で共通していると考えた。

高 2F O.A

「アーティストは必要不可欠だけでなく、生命維持に必要なのだ。」

ドイツの文化相モニカ・グリュッターはこう断言し、文化芸術に関わる中小企業や個人に約 6 兆円の支援をすることを約束した。「確かに。」そう思った。今もこれを書きながら音楽を聴いている。曲を一曲も聴かずに過ごす日はないと思う。平和すぎる一日にはお気に入りの映画を観たくなるし、写真家の写真を見て旅行している気分になる日もある。芸術でコロナウイルスを収束させることはできない。でも芸術が心を支えてくれる。科学も芸術も人間にしか作り出せない、生きるためには必要不可欠な財産であると思う。

4 月 30 日 (木) 『〇〇男子/〇〇女子をどう思いますか』

先生からの問い

高 2A F.S

ビーフシチューの後ろにさりげなく写っているパン(レーズン入り?)も含め、とても美味しそうだと思います。私も料理頑張ります。先生が言及されていた「〇〇男子・女子」という表現。確かに「弁当女子」という言葉を見かけないことから、一種の固定概念が感じ取れる。こうした表現は、性別による



「普通な振る舞い方」を決めつけてしまっているようにも思う。例えば私達がよく日常生活で使う「女子力」(「女子力ログアウト」と使われやすい気もするが)という言葉は、「女子らしい振る舞い」を意味するものだと解釈しているが、そもそも「女子らしい」って何?誰が決めたの?と考えることもある。言葉によって行動に制約がかかるような状況だ。

けれども同時に、「〇〇男子・女子」という言葉には長所もある。こうした表現を使うことにより、その人のパーソナリティを一言でまとめることができると思う。例としてゲームの登場人物一覧を挙げてみる。キャラクターひとりひとりの紹介文が長いと、読む気が失せたり、覚えきれなかったりはしないだろうか?その点、「〇〇男子」などとまとめてしまえば、より多くの人に覚えてもらえたり、印象に残ったりするだろう。

「〇〇男子・女子」という言葉は時としてジェンダーステレオタイプを背負うものではあるが、上手く利用すれば効果的なキャッチコピーとして利用できる、便利なツールだと思う。

高 2B I.M

ジェンダーステレオタイプについて考えたとき最も重要なのは幼少期からの教育だ。ありふれた解答なのは重々承知だが、固定観念はなかなか治せるものではないので、少しでも減少させるためには早くから子供にジェンダー教育をしていくべきだと思う。私は中学に入ってから模擬国連やディベートの活動を通してジェンダー問題に関して考える機会が多かった。そうした中で、私はなるべくジェンダーに関してはオープンな考えを持っているつもりだった。スカート履く男の人、同性同士で結婚する人、また性別という観念にとわれない生き方をする

人。世界には様々な人が居て、それを否定する気持ちはないし、「みんな違ってみんないい」を信じてきた。

だが、今日話を聞いて私の中にもジェンダーステレオタイプが染み付いているということに気付かされた。先生が料理を頑張っていると聞いて、自然と「料理男子だ!」と思った。そこに否定的な気持ちがあるわけではなく、男性が料理をするのは珍しいことではないのも知っているが、咄嗟に「料理男子」という言葉が浮かんだのだ。その時点で意識していなくても私は一種のジェンダーステレオタイプに加担しているのではないかと思った。いくら中学・高校とジェンダーについて多くを学び、考えを改めていても、幼少期から染み付いた固定観念はなかなか消えない。小さい頃に学んだ「常識」が根底に残っている限り、完全にジェンダーステレオタイプを無くすことは不可能なのではないか。

そこで、子供が社会から「常識」という固定観念を学ぶ前に、ジェンダーについて広い視野を持つことを教えるべきだと思う。大人になってから考えを改めるのではなく、そもそも偏った考えを持たないことで、ジェンダーステレオタイプを根底からなくしていけるのではないだろうか。頻繁に「〇〇男子/女子」のような言葉を耳にするが、このような言葉を使うことはジェンダーステレオタイプを減らすことにも、一方で助長することにもなると思う。「料理男子」のような言葉を流行れば男性が料理に興味を持つひとつのきっかけになるかもしれない。より多くの男性が料理を始めれば、女性が台所に立つという固定観念が薄れることに繋がる。しかし、違う見方をすると「料理男子」が広まれば広まるほど男性が料理するのが「特別」という考えが浸透してしまうととれる。このような言葉を使う上で、偏ったジェンダーステレオタイプにとらわれないように常に気をつけることが大切だと思う。

5月1日(金) 『あなたが疑問に思っていること』 S先生からの問い

①疑問 ②疑問に思った経緯 ③現在の自分ならどのように答えるか

高2C NK

プライドを捨ててもいいのだろうか。プライドが邪魔をして一歩踏み出すのが難しかった時、これを疑問に思った。プライドは自尊心や自負心という意味も持つと同時に自惚れという意味も持つ。「プライドを持ちなさい」とも言うし、「プライドが高すぎる」とも言われる。どうすれば1番良いプライドの持ちかたができるのだろうか。私は、自分を守るためにプライドを使わないことがそれに繋がると思う。自分自身を守ろうとするからプライドの高い人ほど傷つきやすくなる。自分を信じられるようにするためのプライドを持つべきだと思う。そうすれば、高いプライドを持つ人は周りに何か言われたとき、それが自分自身納得できるものだったら柔軟に対応し、自分が本当に納得したものに基づいて行動するようになるため傷つくことは無くなる。自己防衛のための道具としてのプライドはいらないが、自分の生き方に対する納得という形でのプライドは決して失ってはいけないと思う。

高2E U.H

①「なぜ人々は音楽に惹かれるのか。」

②この休みの期間に様々な部類の音楽を聞きいており、それは明るいものから、悲しいものなど様々なものがある。歌詞に注目すると、明るい音楽だと思っていたものが、辛さを描いていることなどもあり、音楽の中でも様々な表現があることを知った。そして、集中力を高めたり、ルーティーンとして音楽を聞く人がいると聞いて、もっと音楽の与える影響について詳しく知りたいと思ったから。

③私は音楽には人の心を大きく動かす力があると思う。例えば辛い時、人々は同じつらさを描いた音楽や、前向きになれる音楽を聞く。こういう時は前向きになるために、他のところからきっかけを貰おうとしているように思う。このような、「気持ちをきりかえたい」という人々の心情から、音楽が好まれる要因のひとつだと思う。また、音楽の解釈を好む人もいる。例えば、歌詞を読み取ることで、音楽を聞くこと以外に気づくことがあるのだと思う。この歌詞は何を表したいのか、何を伝えたいのか考え、なぜこの表現なのか、1番と2番で歌詞がちょっとずつ違うのはなんでなのか、ここでオクターブあがったのは何故なのか、など。このような国語と同じように作曲者の意図を読み取ろうとすることも、音楽を楽しむひとつなのではないかと思う。私の中で最大の要因と思っているのは、ある音楽に対して共感できるからだ。人気な曲の中には、聞いている人が共感できるというような理由がランクインするのをよく見る。共感できる曲を聞くことで、心を癒すことができるのではないかな。

5月2日（土） 『平等と公平』

A 先生からの問い

高2C K.N

平等と公平の違いは、「平等は公平さを推進させるために全員に対して同じものを与える。しかしそれが正常に機能するのは全員のスタート地点が同じ場合に限られる。この場合では全員の身長が同じ時だ」一方、公平（Equity）に関しては「公平さは人々を同じ機会へのアクセシビリティを確保すること。個人それぞれの差異や来歴は、何らかの機会への参加に対し障壁となることがある。なので最初にまず公平さが担保されて初めて平等を得ることができる」

ーThe professional（5月2日アクセス）より 引用
ということらしい。つまり公平が基盤で、そのさらに上に平等が成り立つ、ということだ。だからバリアフリーのような身体的障壁、経済的な格差などを埋める公平さが必要だと思う。また女性だから、LGBT だから、といって差別される不公平もあってはいけないと思う。だが厳密に言えば、人は誰もが少しずつ違うので、どちらも完璧に成し遂げることはできないと思う。

ただ、人には必ず公平なことがある、と考えている。誰かの言葉だったが、それは、与えられている時間は決まっていて、後戻りはできない、ということだ。

「感染症の世界的拡大は戦争ではない。国と国、兵士と兵士がたたかっているわけでもない。私たちの人間性が試されている」（独シュタインマイヤー大統領テレビ演説）

高2B S.H

人間性が試されるというのは、このような緊急事態のときにも他人のことを思いやった行動ができるかどうかを試されるということではないかと私は思う。最近あまり目立たなくなったが、マスクや消毒液の品切れが深刻な問題となっていた。消毒液をコロナウィルスの感染予防にと大量に買いだめしてしまう人がいたが、日常生活で必要とし、なければ命に関わるという人が品切れ状態であることを心配していた。また、マスクも自分の分がなくならないように沢山買ってストックする人がいる反面、マスクが品切れで買えずマスクなしで通勤せざるを得ない人もいた。

社会が混乱状態ではあるが、その時自分のことしか見えなくなってしまう人、他人のこととも考えて行動できる人に別れる。このような緊急事態で果たして人は冷静に周囲のことも視野に行動できるかどうか真の人間性が現れる時だと思う。

わたしは自然に周囲のことも視野に入れて行動できる人間になりたい。

高2D I.M

コロナウイルス感染拡大の中、世界中で医療従事者への応援や、このような状況だからこそ一つになろうとする動きが見られる。一方で、感染者への差別、私たちの命を救う医療従事者が除け者扱いされているという心無いニュースも耳にする。感染拡大を一つの国のせいにしようとしたり、感染者を非難することはあってはならないことだ。もし、自分が感染して非難される側になってしまったらどう思うだろう。今感染していない人も、いつ感染してもおかしくない環境なのだ。その想像が緊急事態のパニック状態の中で失われてしまっているのではないだろうか。私も知らずにその1人になってしまっていたかもしれない。

私の母は病院に勤めている。コロナウイルスへの恐怖も危機感も人一倍あるだろう。私も感染リスクが決して低いわけではない。でも、母が、医療現場で働いているという理由で色眼鏡で見られる方がもっと怖い。幸い、母の働く病院ではまだ陽性者は出ていないし、差別にあったという話も聞かない。私はずっと病院で働く母を応援したいし、誇りに思う。

そして父はイギリスで単身赴任をしている。感染拡大の初期、ヨーロッパではまだほとんど感染者が確認されていなかった頃、街を歩いていたらアジア人という理由だけでウイルス扱いされた事があったと言っていた。はじめは憤りを覚えたし、悲しいと思った。しかし同時に、立場が逆だったら自分もそうってしまったかもしれないことに、人と人との繋がりを壊しかねないウイルスの恐ろしさを実感した。異国で沢山の不安を1人で抱えている父を身近で感じ、このウイルスは国ごとの問題ではないのだと改めて感じた。自国が良ければ良いのではなく、世界全体でウイルス終息に向けて動くという意識が大事なのだと思う。ただでさえウイルスが脅威を振るう世の中で、ウイルス同じくらい恐ろしいことは、人と人、国と国が傷つけ合

うことだ。しかし、それは私たちの手で食い止めることができる。今だからこそ、離れていても手を取り合って思いやりの心を忘れてはいけないのだ。

高 2F N.M

この新型コロナウイルスによって試されている人間性は協調性だと思う。家にいる時間が普段と比べて圧倒的に増え、だんだんストレスも溜まってきて一緒にいる家族に対する態度が悪くなってきてはいないだろうか。

家族だからといって何でも自分の思っていることをぶつけていいわけではない。この状況でストレスが一切溜まっていない人はいないと思う。みんな同じつらい思いをして乗り越えようとしているのに、自分だけ感情を家族に叩きつけるのはナンセンスだ。こういうときこそ力を合わせてポジティブに考えれば気持ちも落ち着くし、家族への配慮もできるようになるのではないか。

私の家ではいつもなかなか一緒に時間を過ごすことができないので、家族と毎日ご飯を一緒に食べたり、たくさんしゃべったりなど、いつもならできないことに感謝して、家族一人一人がなんとなく協調しあっているように思える。特に海外出張の多い父は、たくさん出張がキャンセルになったため、最近は家事の手伝いもしてくれる。このように、自分のことだけを考えるのではなく、同じ状況にある他の人にどれだけ配慮ができるかが試されているのではないだろうか。

5月8日（金） 『人生を著す』

N 先生からの問い

高 2A M.H

人生は宝石探しです。キラキラとしたイメージを持つかもしれませんが、実は挫折や地道な努力が不可欠です。原石は見つかるまでは鉱山の中で他の石に紛れて眠っています。必死に探して見つからない人もいればたまたま見つける人もいます。ただし、もし見つけてもしっかり磨かないと価値のある宝石にはなりません。磨く方法も様々で、そのまま無駄にする場合もあるでしょう。人はそれぞれの宝石を抱えて自分の財産にしていくのです。

高 2B I.K

人間は花のようなものだと思う。人も花もこの世界の何処かで生まれる。人は何かを成し遂げるために他のものに頼ることがある。花も同じで花粉を運んでもらうために鳥や虫、風などに助けをもらう。人も花も、一つであれば無力だと感じることもあるが、集まれば大きなことができたり人の心を動かすこともできる。そして人は人生において困難なことや試練があり、花も同様に雨が降ったり水がなかったりすることがある。困難に耐えて乗り越えるほど強く太

くなっていく。人間としての終わりは死であり、花も当然死が訪れる、枯れてしまったり摘まれてしまう。

似ているけれど違うところもある。私の好きな歌のなかに「世界に一つだけの花」がある。「この中で誰が一番だなんて 争うこともしないで バケツの中誇らしげに しゃんとむねをはっている それなのに僕ら人間は どうしてこうも比べたがる ひとりひとり違うのにその中で 一番になりたがる？」

人がみんなそれぞれの良さをみつけて生きていけるようになったらいいと思う。

高 2D M.M

私達は星で、初めは何も持たない塵屑程度の大きさである。それが周りに浮かぶものに触れてくっつき、どんどん大きく成長していく。時には星同士でぶつかって、一つにまとまる事もあればどちらも壊れることもある。そうしてたくさんの星たちの中を漂う中で、巡り会った星と共に、私達は星座になる。

成長した星は自分だけの光を手に入れて、その自分の輝きに気づくこともあれば、気づかないこともある。普段は無数の星達の一つとして星空の中に埋もれ、でもたまにほんの一瞬だけ、誰かにとってのただ一つの一番星になる。

高 2E M.S

人間はそれぞれシャープペンシルの芯を何本か持っている。芯をペンに入れて使っていくと、次第に芯が短くなっていく。ときには折れる時もありながら。芯を使い終わると、また新しい芯を詰め替える。その芯も短くなっていき、なくなる。それを繰り返すと、詰め替えるための芯がなくなるときがくる。そしてそのシャープペンシルは機能しなくなる。

私は人生をシャープペンシルとシャープペンシルの芯に例えた。シャープペンシルは「人」。シャープペンシルの芯は人によって本数が違い、人生の時間。折れてしまうのは、何かに失敗したとき。でも芯がまた出てくるのは、気持ちを入れ替えて前に動き出すから。詰め替えるための芯がなくなるとき、それは人の死。

シャープペンシルにも、芯の太さにも、様々な種類がある。また、一人ひとり、描いてあらわす文字が異なる。それは人と同じだと考えた。

高 2F Y.C

私の人生は時計の針のように止まらずに進み続けている。私が短針であるとする、人生の中で何度も長針や秒針である他の人々と関わり、様々なことを学びさらに進み続ける。人生は学びの繰り返しである。やがて、古くなった時計は動かなくなってしまう。これが人間でいう死を表している。時計のように進み続ける人生は少しも無駄にしてはならず、いかに毎日を有意義な時間に出来るかが重要だと思う。